

■春期研修会

総会后、平成22年度春期研修会を開催し、元日本ハムファイターズの白井一幸氏による講演会を行いました。

講演「組織と部下を活かすコーチング」

講師 白井一幸 様

(元日本ハムファイターズヘッドコーチ)

これまで、青年技術士交流委員会ではテクニカルスクールを開催し「コーチング」について学んできていました。今回はその集大成として、「メンタル・トレーニング」の著者である白井氏をお招きし、リーダーとしてのコーチング技術についてご講演を頂きました。



写真-1 講演風景

白井氏のお話では、リーダーとは『組織（日本ハムファイターズ）が成功（勝利・優勝）するために、部下（選手）が成長・成功（上達・昇給？）することを手助けする役割』を担うことになるようです。

その前提に立てば、指導のための指導、リーダーの自己満足的指導、「怒る」、「教える」、「やらせる」の3本セットは論外と仰っていました。

これをすると、選手は萎縮し受身になって上達は望めないそうです。時にはビシッと怒ることも必要だし、教えることも必要だけれど、それをベースとする指導はダメで、選手を励ましなぜ上手くいかないかを質問をし、自分で考えさせるように仕向けることが（難しいことだけど）重要なのだそうです。いかに選手が主体的に考えて行動できるようになる

か、このような選手がたくさんいるチームは必ず強くなると仰っていました。

もう一つ興味をそそられたのは指導方法です。ミスすること自体は許すそうなのですが、そのプレイなり練習姿勢が、萎縮していたり、緊張感が欠如していたりするととてつもなく怒るそうなのです。

特に緊張感については、大事な試合でプレイするときには必ず緊張する（そんな試合で緊張しない選手は絶対に使わないとか）、だから練習のときから緊張した状態でしないと大事なときにミスが出るし、それ以前に自信が持てない。確かに緊張すると頭は真っ白になり、体は硬直してしまう傾向にあるけれど、それは克服できることで、緊張に慣れることが必要、もっと言えば緊張を楽しむことが大事である、とお話しされました。

我々技術者は、往々にして、仕事に慣れるほど緊張に対して不感症になることがあるような気がします。部下の指導はもちろん、自分自身も緊張感を意識した仕事をしなければいけないなあと考えた次第です（そういえば技術士の口答試験はメチャクチャ緊張しましたが、実際に想定した口答試験の練習は確かに役立ちました・・・）。

ちなみに、日ハムが強くなった大きな要因の一つに、他の球団にはない北海道の日ハムファンと選手の間をあげていました。リーダーと部下の良好な関係、励まし励まされる関係が、そこにあったのだということでした。日ハムがこの講演会開催時点でリーグ最下位、借金7のため、最近微妙に野次も多いようですが、これまで通り暖かく支えてやってください、とお願いされていました。

ユーモアを交えた非常にわかりやすい語り口でとても有意義な講演会でした。終了後、出席した皆さんからも「とても良かった」、「ためになった」と大変好評でした。皆様が組織に戻られて、一皮むけたリーダーとして活躍されることを願っております。

(文責：青年技術士交流委員会 大槻政哉)